

ハンドブック
ワンポイント
レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

マッチ終了後（個人戦）の挨拶の手順について教えてください。先日、中学生の大会をスタンドで観戦していた際に、隣り合わせのコートのマッチがほぼ同時に終了しました。すると一方のコートでは選手と審判がすぐにコート中央のネット付近へ集まっていたのですが、もう一方のコートでは選手がサービスラインの外側に並んでいて審判がコート中央へ来た時に「ありがとうございました!」と挨拶をした後にネット付近へ集まっていました。マッチ終了後の挨拶の仕方としてはどちらが正しいのでしょうか？

Answer

マッチ終了後はプレーヤー、アンパイヤーともに、すみやかにマッチ開始前の挨拶をした位置に集合する。挨拶が終わったら、ありがとうと感謝の気持ちを持って握手を実行しましょう。

今回のご質問は「マッチ終了後の挨拶について」ということで、その間違いによって得ポイントや失ポイントに直接関係する内容ではありませんので、日頃あまり気にすることなくやり過ごしている方も多いのではと思います。しかし終了後の挨拶はマッチの締め括りでもありますので、プレーヤーとして正しく覚えておくよう心掛けましょう。

マッチ終了の挨拶のことをお話しする前に、マッチ（ダブルスの個人戦）開始時の挨拶についてはどのようなになっているか確認してみましょう。双方のプレーヤーは、サービスラインの外側中央でネットの方向に向かいあい二人が並んで立ち、アンパイヤーの正審と副審は審判台側のサイドライン外側に位置します。そして正審の合図及び「集合」のコールにより、双方がネット中央付近まで互いに歩み寄り、プレーヤー同士次にアンパイヤーと挨拶を交わします。

それではマッチ終了後の挨拶はどうでしょう。審判規則第23条（マッチの進行）第1項、第12号に次のように記載されています。「マッチが終了した後、正審は『ゲームセット』のコールをして直ち

に審判台を降り、プレーヤーを待たせないように、マッチ開始（トスの位置）の挨拶をした位置に立つ。プレーヤー及び他のアンパイヤーもネットの傍に寄る。正審が『〇対〇で〇〇ペアの勝ち』等と勝敗の宣告をした後、プレーヤー同士、そしてプレーヤーとアンパイヤーが挨拶をして解散する。」こちらをお読み頂ければご質問の事例でどちらが正しかったかはもうお分かりでしょう。おそらく間違っていたプレーヤーはマッチ開始の時も終了の時も挨拶の手順は同じものという思い込みがあり、また丁寧にそれがいつのまにか習慣化してしまっているものと思われる。しかも今回のご質問などはマッチ終了後で勝敗が決していることから、それが正しいのか誤りであるか否かについて関心を持たれる方が少ないように感じています。ですがマッチというものは終了の挨拶が交わされプレーヤーが解散するまでを指していますので、審判規則に則って行動するよう意識をすることが大切です。

マッチ終了の挨拶に関連することで、正審が「ゲームセット」のコールを行ったあと、審判台の上で採点票へ最終ポイントのスコアやポイントカウント、

ゲームカウントなどの記入を行っているためにプレイヤーがネットを挟んで整列した状態で正審が来るのを待ち続けている場面を時折見かけます。正審は「ゲームセット」とコールをしたら、速やかに審判台上から降りてプレイヤーを待たせないよう勝敗の宣告を行うようにしましょう。採点票への記入はその後に行っても問題はありません。また、マッチ開始・終了の挨拶を行う際に、副審が正審とプレイヤーを挟んで反対側に位置している場面もまれに見かけます。挨拶を行う際は正審と副審はネットを挟んで審判台側に位置しますので、こちらも間違いの無いよう気を付けましょう。

今回のご質問では、中学生の大会での出来事とのことでしたが小学生、中学生というソフトテニスを始めて間もない時期に指導を受けた習慣というものは、間違いであったことの指摘を受けても心身に染みついて改善されにくい傾向にあります。ソフトテニスハンドブックやジュニア審判マニュアルをよく読み正しい知識を身につけるよう心掛けましょう。

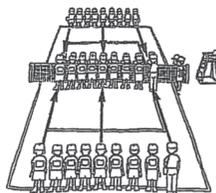
【関連規則】

審判規則

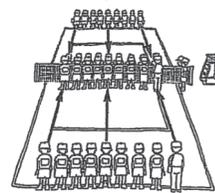
第23条 マッチの進行

ジュニア審判マニュアル

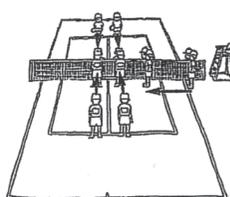
審判規則について 10. マッチの進め方



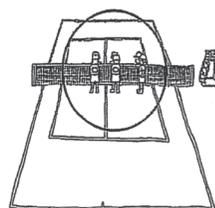
団体戦開始時



団体戦終了時



個人戦開始時



個人戦終了時